

安房国分寺跡(館山市)

あわこくぶんじあと

安房国分寺入口という立て看板があり、中央やや左手には「県・市指定史跡 安房国分寺跡」と記された標識も見える



ここが現在の日色山国分寺で、この境内が安房国分寺跡とされている



「千葉県指定史跡安房国分寺跡」の標柱の後ろに現在の石の標柱が立つ



明治45年5月造立の孝子伴直家主之里(石碑)



山門/昭和34年建立



右手前方に説明板が立っている



説明板とその後ろに石碑が立つ

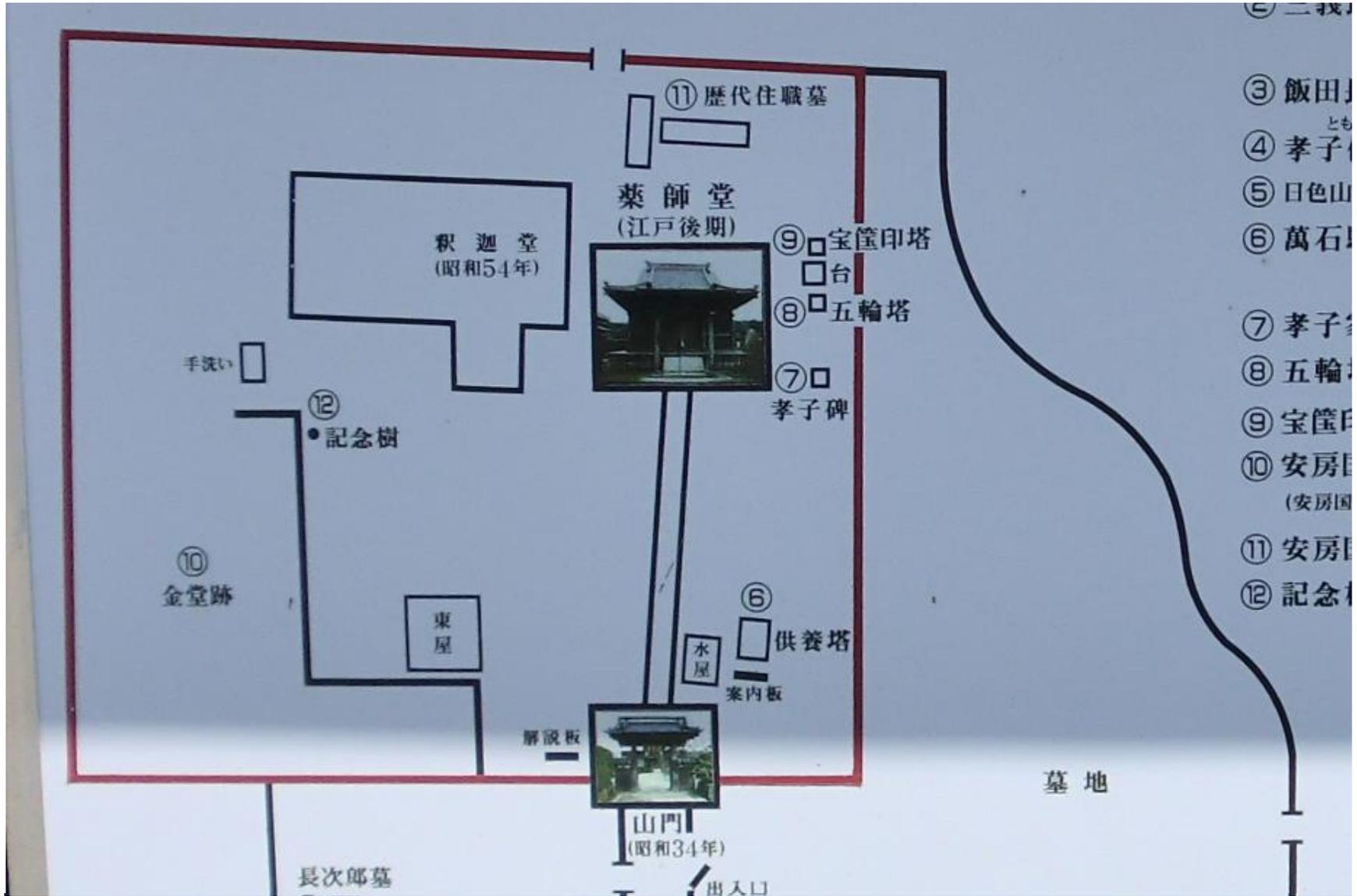


昭和34年11月25日造立の萬石騒動二百五十年忌供養塔



その基壇







名称等

- ① 安房郡三名主之碑 (二百年忌石碑)
明治43年11月26日
- ② 三義民供養碑 正徳元年卯天 十一月廿六日
(館山市指定史跡 昭和49年2月21日)
- ③ 飯田長次郎之墓 (国分村名主 三義民の一人)
とものあたいやかめし
- ④ 孝子伴直家主之里 (石碑) 明治45年5月
- ⑤ 日色山 国分寺 (石の標柱)
- ⑥ 萬石騒動二百五十年忌 供養塔
昭和34年11月25日 建之
- ⑦ 孝子家主之碑 嘉永三年歳次辛亥九月建
- ⑧ 五輪塔 南北朝時代 (推定 14世紀)
- ⑨ 宝篋印塔 江戸時代 (推定 17世紀以後)
- ⑩ 安房国分寺金堂跡
(安房国分寺跡として千葉県指定史跡 平成4年2月28日)
- ⑪ 安房国分寺歴代住職墓
- ⑫ 記念樹 (昭和59年6月30日)

(備考) 明治43年	西暦 1910年
正徳元年	” 1711年
明治45年	” 1912年
昭和34年	” 1959年
嘉永三(四)年	” 1851年

(赤枠内 千葉県指定史跡)
(その他 館山市指定史跡)

山門の裏にも説明板が立っている





県指定史跡・市指定史跡
あわこくぶんしあと
安房国分寺跡

(県指定：平成4年2月28日 市指定：昭和32年12月16日)

所在地 県指定：銚山市区分952-2塚か 市指定：銚山市区分958-1塚か

真言宗智山派の日色山国分寺。今の国分寺を中心とする一帯が、安房国分寺跡とされる場所です。寺の入口を、道路が南北に横切っていて、銚山平野で確認されている家裏削の跡の方位と一致していることから、安房国分寺が、かつて桑原のなかに組み込まれていたことがわかります。桑原制とは、奈良時代に日本の各地で行われた土地の区画を整理する事業のことで、水田を同じ大きさの区画にそろえて管理するためにできあがった制度です。

国分寺は、天平13(741)年に、聖武天皇が國家の平安を保つために「国分寺建立の詔」によって建てた国立の寺院で、金光明四天王護國之寺という僧寺と、法華滅罪之寺という尼寺があります。

安房国分寺がいつ建てられたのかということを探る時、考えなくてはならないことが、安房国設置の時期です。安房国は、養老2(718)年に上総国から分かれて置かれましたが、「国分寺建立の詔」が出された天平13(741)年には上総国へ合併され、その16年後の天平宮宇元(757)年に再び設置されました。したがって、安房国では、上総国・下総国より遅れて、国分寺・国分尼寺が建立されたと考えられています。

今の国分寺境内の北側には土盛りがあり、昭和51~53(1976~78)年に、銚山市教育委員会と早稲田大学が行った発掘調査で、東西22m・南北15mの基壇(敷地面より一段高くつくった建物の基礎)が確認され、安房国分寺の中心をなした金堂跡と推定されています。



国分寺境内の土盛り
安房国分寺の金堂跡と推定される東西22m・南北15mの基壇が確認されました。



安房国分寺の礎石
国分寺境内に直径約60cmの安房国分寺の礎石と推定されるものが4つあります。うち1つは藤原朝の石造の礎石の下にあります。

その周辺から、紫紺七葉葉井蓮華文という文様のある磁瓦(軒先に用いる丸瓦)のほか、全国でも珍しい獣脚の形をした三彩陶器が出土しています。調査により出土した遺物の年代から、安房国分寺は、奈良時代後半に建てられたものと思われます。



安房国分寺出土の磁瓦(複製)
出所：千葉県立歴史民俗資料館
撮影：銚山市立博物館



三彩陶器獣脚片 銚山市立博物館蔵

現在のところ、上総国・下総国の国分寺のような伽藍配置(寺院における塔・金堂・講堂などの建物の配置)をもつ複数の建物跡は確認されていません。また、「国分寺」の北方約900mのところには、「アマンボウ」という地名があり、「尼坊」とも考えられることから、安房国分寺の推定地の一つになっています。

平成28年3月 銚山市教育委員会

安房国分寺跡

〈県指定：平成4年2月28日 市指定：昭和32年12月16日〉

所在地 県指定：館山市国分952-2ほか 市指定：館山市国分958-1ほか

しんごんしやうぢざんは
真言宗智山派の日色山国分寺。今の国分寺を中心とする一帯が、安房国分寺跡とされる場所です。寺の入口を、道路が南北に横切っていて、館山平野で確認されている条里制じょうりせいの跡の方位と一致していることから、安房国分寺が、かつて条里のなかに組み込まれていたことがわかります。条里制とは、奈良時代に日本の各地で行われた土地の区画を整える事業のことで、水田を同じ大きさの区画にそろえて管理するためにできあがった制度です。

国分寺は、天平13(741)年に、しやうむてんのう聖武天皇が国家の平安を保つために「こんりゆう国分寺建立の詔まことのみこと」によって建てた国立の寺院で、こんこうみやうしてんのうこくごてら金光明四天王護国之寺そうじという僧寺と、ほっけめつざいのてら法華滅罪之寺にじという尼寺があります。

安房国分寺がいつ建てられたのかということを推測する時、考えなくてはいけないことが、安房国設置の時期です。安房国は、よつらう養老2(718)年に上総国から分かれて置かれましたが、「国分寺建立の詔」が出された天平13(741)年には上総国へ合併され、その16年後の天平宝字元まっし(757)年に再び設置されました。したがって、安房国では、上総国・下総国より遅れて、国分寺・国分尼寺が建立されたと考えられています。

今の国分寺境内の北側には土盛りがあり、昭和51～53(1976～78)年に、館山市教育委員会と早稲田大学が行った発掘調査で、東西22m・南北15mのきだん基壇(敷地面より一段高かつくった建物の基礎)が確認され、安房国分寺の中心をなしたこんどう金堂跡と推定されています。



国分寺境内の土盛り
安房国分寺の金堂跡と推測される東西2.2m・
南北1.5mの基壇が確認されました。



安房国分寺の礎石
国分寺境内には径約60cmの安房国分寺の礎
石と伝えられるものが4つあります。うち1つ
は薬師堂前の枝垂れ柳の下にあります。

その周辺から、モスリナナヨウソベレンゲモン素縁七葉素弁蓮華文という文様のあるあぶみかわら 鑑瓦（軒先に用いる丸瓦）のほか
じゅうぎやく 全国でも珍しいさんさい 獣脚の形をした三彩陶器が出土しています。調査により出土した遺物の年
代から、安房国分寺は、奈良時代後半に建てられたものと思われます。

国分寺建立の詔が発せられる以前から在地の仏寺としていたものを安房国分寺に改称したのではないかとというのが

その周辺から、素縁七葉素弁蓮華文という文様のある燈瓦（軒先に用いる丸瓦）のほか
全国でも珍しい獣脚の形をした三彩陶器が出土しています。調査により出土した遺物の年代から、安房国分寺は、奈良時代後半に建てられたものと思われま



安房国分寺跡出土の燈瓦（複製）
原品：千葉県立房総風土記の丘蔵
複製：館山市立博物館蔵



三彩陶器獣脚片 館山市立博物館蔵

現在のところ、上総国・下総国の国分寺のような伽藍配置（寺院における塔・金堂・講堂・などの建物の配置）をもつ複数の建物跡は確認されていません。また、「国分寺」の北方約900mのところには、「アマンボウ」という地名があり、「尼坊」とも考えられることから、安房国分尼寺の推定地の一つになっています。

平成26年3月 館山市教育委員会

中央は薬師堂(左手)手前の枝垂れ柳の下にある安房国分寺の礎石の一つという



アップで見る



薬師堂/江戸時代後期の建立



左手は釈迦堂



孝子家主之碑/1851年造立



薬師堂右側にあるさまざまな石造物



左手の宝篋印塔と右手の五輪塔の間に「台」がある/上に何か乗っていたのであろうか



南北朝時代(14世紀)の五輪塔



側面から見たところ



五輪塔

五輪塔は、仏教で宇宙の構成要素とされる地・水・火・風・空を表わす方、円、三角、半月、団の形の石を積み上げたもので鎌倉時代以降、武士の供養塔や墓石として好んで作られ全国的に分布しています。

この五輪塔は、伊豆原産の安山岩で作られており各輪の四面には梵字が刻まれています。どっしりとした風格があり、南北朝（四世紀）の作と推定され、完全な姿を残すものとしては市内で最も大きく、年代も古いものです。

全高 一〇三センチメートル



江戸時代(17世紀以後)の宝篋印塔



薬師堂裏手の安房国分寺歴代住職墓



さて、正面の一段高くなったところが安房国分寺金堂跡



近寄って見る



右手に標柱が見える



安房国分寺金堂跡と記された標柱



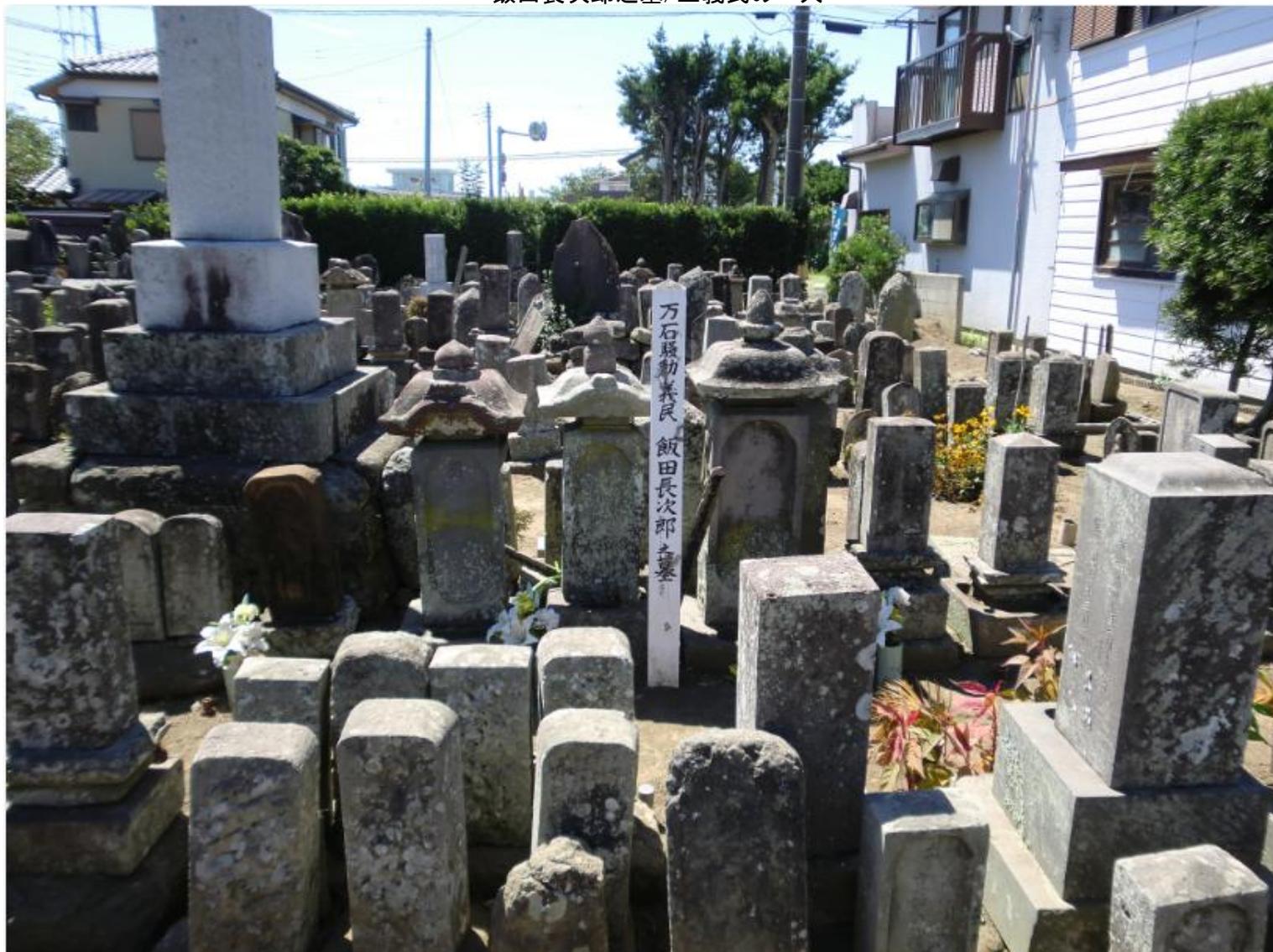
土留めのブロックに「金堂跡地土留工事完成 平成11年10月」とある



さて、これは境内の墓地にある三義民供養碑/1711年造立/右手の大きな石碑は安房郡三名主之碑



飯田長次郎之墓/三義民の一人



参考ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/8209/awakokubunji.htm>

<http://furusato.mbit.or.jp/modules/dbx/?op=story&storyid=594>

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/bunkazai/bunkazai/p411-079.html>

<http://karopapa.cocolog-nifty.com/blog/2012/09/post-f2f4.html>

<http://orange.zero.jp/kkubota.bird/awa.htm>

http://www011.upp.so-net.ne.jp/dhistory/tcib_005.htm

<http://komatsu0513.heteml.jp/awa.html>

<http://shikado.cocolog-nifty.com/zakki/2012/11/post-3d8e.html>

<http://dappee.com/blog/?p=11214>

